

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第669号 2025年11月9日

「巡礼」という出会いと恵みの場

主任司祭 ミカエル鈴木真

今年は、聖年の横浜教区指定巡礼地が唯一山手教会の聖堂ということで、実にたくさんの、さまざまな巡礼のグループをお迎えして、できる限りわたしから聖堂の説明をさせていただいています。

こちらは巡礼の方々を迎える立場ですが、さまざまな方々との出会いがあり、また、その中で新しい気付きなどもいただきました。そのひとつがチェコのステンドグラスです。現在の山手教会の聖堂がスワガーというチェコの人の設計によるものということで、チェコでは有名な『ヨハネ・ネポムク神父』という殉教者のステンドグラスが飾ってあるわけですが、この『ヨハネ・ネポムク』とは、その神父さんの名前だと思っていました。ところが「ネポムク」とは地名で、「ネポムクのヨハネ」でした。今では「ネポムク市」という場所があるそうで、なんと7月にそこの副市長さんという方が山手教会を訪問されました。そして、いろいろと話してくださいました。

わたしも、きっちりと調べてなかったのですが、ヨハネ神父の頭の周りに輪っかがあって、そこに5つの星が描かれています。ヨハネ神父が天に召された時、頭の周りで5つの星が輝いた…というのがネポムクでは有名な話で、ヨハネ神父の絵やご像のすべてにこの「5つの星」があるそうです。

いらした副市長さんも大変に喜ばれて、その後メールをいただきました。「温かいお迎えと教会へ

の訪問をさせていただき、誠にありがとうございます。地球の裏側まで旅をして、教会でわたしたちの最も有名な故郷の人物像を見ることができ、大変光栄に思います。今後とも御連絡を差し上げ、今後の御協力を心よりお待ちしております。」…なんとも幾重にも感動しました。聖年という時の、巡礼という行為を通して、さまざまな恵みをいただいていることに、今更のように気付かされました。

カトリックの「巡礼」とは、〈神とのつながりを求めて、日常を離れて宗教的由来の地に赴くこと〉なのだそうです。巡礼をする動機は人それぞれでしょうが、「巡礼」という行為を通して神さまがはたらかれていることを強く感じます。フランシスコ前教皇が言われた「希望の巡礼者」というテーマですが、「聖年」という時を祝うわたしたちのさまざまな行為の中に、確かに神さまがはたらかれて、出会いや気付き、そして、新たな発見などが与えられている…そのことに心に向けることが「希望」であるようにも感じました。

12月28日の聖年閉幕まで、もうしばらくこの恵みを多くの人と分かち合いたい、と思います。

鈴木 真主任司祭 主日ミサ説教

2025年8月17日 年間第20主日 C年

ルカ福音書 12章49～53節

「わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか…むしろ分裂だ」…どうもイエスさんらしく

らぬ言葉…とってしまいますが…マタイの並行箇所では「剣をもたらすために来た」となっています。

どうも背景にあるのは、旧約の預言書などで語られる、終末時の苦難としての「家族の分裂」のようです（特にミカ書などで見られます）。家族の結束が何よりも重んじられた時代、その「分裂」は今までにない大きな苦しみ、と捉えられました。そして、実際、初代教会において、キリストの共同体に加わることはイコール、家族との決別だったでしょうし、当時、持たれていた終末（世の終わり）への臨場感がそれを想起させたのではないのでしょうか。

ですから、この箇所は、イエスの言葉というよりは初代教会が発したキリスト者としての覚悟を促すもの…と捉えた方がいいかもしれません。

日本でも昭和の時代は、洗礼を受けること自体、家族と離れる覚悟が必要だったり、修道会に入ることと勤当同様の扱いを受けた…と言うことも聞きましたが、今日はそれほどのことはないにしても、むしろ日常の細かいところでキリスト者としての判断や行動が問われているようにも感じます。その時々自分がどうすべきなのか、でも、これも必要なことは神さまが促してくださる…と信じていますが、その時、それに身を委ねることができるかどうか、ということかもしれません。いずれにしても、イエスに従うとは白か黒か、グレーはないということなのでしょう。

さまざまな価値観が飛び交う現代にあって、キリストに、しっかりと従って歩むことができるよう、共に祈りたいと思います。

新助任司祭紹介



私は、ベトナム北部のイエンバイで生まれた、ヨセフ・トラン・ヴァン・グエップと申します。この度、9月1日付けで山手教会の助任司祭として赴任してまいりました。

5人兄弟の中で、姉が2人、兄が2人おります。3人は結婚し、1人の姉はドミ

ニコ会のシスターとして奉仕しています。

私は高校生の頃から司祭になりたいと願うようになりました。故郷の教会で出会った神父様方の姿を通して、彼らがいつも明るく、人々に寄り添い、愛をもって接していることに心を動かされました。その姿に憧れ「自分もそのように生きたい、司祭として人々に仕えたい」と強く思うようになったのです。

2015年7月に来日し、2019年4月に神学院へ入学しました。2024年4月、横浜の山手教会で助任に叙階され、そして、2025年8月4日、ベトナムで司祭に叙階される恵みをいただきました。

今回、司祭叙階という大きな恵みを受けることができましたのは、何よりも主の限りないいつくしみ、そして、皆様の祈りと支えのおかげであると、心から感謝申し上げます。召命の歩みの中で、私は常に多くの方に祈られ、励まされ、支えられてまいりました。その温かな愛と支えは、私にとって大きな力であり、司祭職への歩みを導く光でした。

これから私は、いただいた多くの祈りと愛に包まれながら、司祭としての新たな歩みを始めます。皆様からいただいたご恩に報いることは到底できませんが、その思いを胸に刻み、生涯をかけて主と人々に仕える司祭として歩んでまいります。どうかこれからも変わらぬお祈りとご支援を賜りますようお願い申し上げます。心からの感謝を込めて。

※グエップ助任司祭からは、日本語で原稿をいただきました。

(編集部)

(撮影：編集部 土方芳人)

第57回横浜教区一粒会大会開催

首題の大会は、10月13日（月・祝）10時から午後2時30分ごろまで、神奈川県足柄下郡箱根町強羅にある函嶺白百合学園で開催され、参加者は大会事務局発表で司教・司祭団を含め800人でした。

大会のテーマは「私たちは神の民、イエスさまについていこう」

開会式は、①開会宣言：神奈川第6地区一粒会大会実行委員長・古藤史朗氏②司祭の召命をもとめる祈り：神奈川第6地区一粒会指導司祭・韓 はん じくす 最守師

③開会の挨拶：横浜教区一粒会本部委員会 委員長・森山民雄氏一で執り行われました。

講話を担当されたのは、大阪高松大司教区・酒井俊弘補佐司教でした。

昼食をはさんで、午後から大会ミサが横浜教区長・梅村昌弘司教主司式で執り行われました。

説教は新司祭の枇杷晃平司祭が担当され、梅村司教からは恒例となった出席司祭の紹介がありました。

閉会の挨拶は、横浜教区一粒会総指導司祭で横浜教区神学生養成担当委員会 委員長でもある保久 要師が行い、最後に梅村司教の「派遣の祝福」で幕を閉じました。

自然に恵まれた箱根の強羅での大会で、会場がひとつになり、アットホームな雰囲気、とてもすてきな大会でした。担当された神奈川第6地区の大会運営委員会の皆さまに感謝いたします。

講話（抜粋）



大阪高松大司教区・酒井俊弘補佐司教

きょう、皆さんにお伝えしたいことの基本的な考え方は2つあります。①今回の話を聞いて、自分がどう変わるべきかを、きょう考えていただきたい②きょうから自分にできることをする一です。わたしたちが変われば見え方が変わります。わたしたちが変われば、その変化は周囲に必ず影響をおよぼします。

神さまが、わたしたちを愛していることを示すものが十字架です。十字架のしるしをする、これを「十字架をきる」と言います。その動作と言葉の意味を説明することができますか。なぜ十字架がキリスト教のシンボルなのでしょう。十字架は死刑の道具です。しかも、カトリック教会では、イエスさまが、はり付けにされている十字架（磔刑のキリスト像）を大切にしています。

ミサ典礼書の総則には、十字架を教会の中に飾ることにに関して次のように定められています。

「祭壇上または祭壇近くに、キリストの姿がついた十字架を置き、会衆からよく見えるようにする。こうした十字架は、信者の心に救いをもたらす主の受難を思い起こさせるので、典礼祭儀以外のときも祭壇の近くに置いたままにしておくことが望ましい。」

十字架のしるしをすることは、神さまとわたし、天と地、という垂直の神、そして、わたしたちをつなぐ聖霊、わたしたちどうしの愛という横のつながりを示す動作です。

聖堂の入り口で聖水をつけて十字架のしるしをするのは、洗礼を思い出すためです。ですから聖堂から出るときに聖水をつける必要はありません。

「主の祈り」は、イエスさまご自身が教えてくださった祈りです。7つの秘跡を執行する場合の典礼には、必ずこの祈りが入っています。この祈りはカトリックとプロテスタントの枠を超えて祈ることができます。次の言葉を忘れてはいけません。「わたしに向かって、主よ、主よ、と言うものが、皆、天の国に入るわけではありません。わたしの天の父のみこころを行うものだけが入るのである」

天の父の心は、ひとことで言えば、いつくしみの心です。カトリック教会のカテキズムの「主の祈り」の説明には、こう書いてあります。「わたしたちは、このいつくしみの計画が常に天上で行われているのと同じように、地上でも完全に実現されますようにと心からお願いいたします。」

「みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように」は、他人ごとの祈りであってはなりません。そうではなくて、あなたのいつくしみの計画が天において実現しているのと同じように、わたしも行います。つまり、わたしの責任で行うのです。

自分が、きょう、どう変わるべきか。きょうから自分にできることは何か。

では、どのように変わることができるのか。「わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします」とありますが、全く並列ではない。もし、完全に並列ならば「わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも罪をゆるします」となります

が、そうではありません。「わたしたちも人をゆるします」とあります。ここに大切な区別があります。罪とは人が自分の意思で行う悪いことですが、わたしたちがゆるさなければならないのは、行為ではなく、その人をゆるし、受け入れることです。同じ父である神の民、兄弟姉妹であるからです。

人をゆるすというのは、難しいことです。ゆるすとは、自分を与えること。自分の判断や思い、こだわりを捨てて初めて、ゆるすことができます。

この点で、イエスさまは、素晴らしい模範を残してくださいました。イエスさまは、十字架にくぎづけにされました。十字架は、わたしたちにとって誇りでありシンボルです。イエスさまが十字架の上から話された言葉が7つあります。そのうちの1つのことばは、次のとおりです。「そのときイエスは言われた。『父よ、彼らをおゆるしください。自分が何をしているのか知らないのです』」

イエスさまのように、わたしたちも人をゆるすために、その人の悪い行いについての言い訳を考えてあげましょう。

「きょうから自分がどう変わるべきか。きょう、自分ができることをする」

きょうからが大事なのです。例えば、きょうから、ゆるせないと思う人のために祈る。ゆるせない人、ゆるしたくない人のために祈りましょう。このことは、聖書に、はっきり書いてあります。イエスのことばです。「敵を愛し、あなたを憎む者に親切にきなさい」「悪口を言う者に祝福を祈り、あなたを侮辱する者のために祈りなさい」と、1日に1回は自分がゆるせない人、会いたくない人、苦手な人のために祈るようにいたしましょう。



共同司式ミサ



派遣の祝福

(編集部 土方芳人)

聖堂の避難訓練



10月4日(土)午後5時の日本語ミサ、午後7時の英語ミサ、10月5日(日)7時半の日本語ミサ、9時半の英語ミサ、11時半の日本語ミサでそれぞれ避難訓練を行いました。避難訓練は毎年行っていることもあり、2階を使わない各ミサでは2～3分程度で避難を完了することができました。ちなみに土曜日の午後5時のミサの避難訓練は、ミサ前に小雨が降っていて地面が濡れていたため、駐車場への避難は省略したとのこと。また英語ミサでは人が多かったことや避難訓練で何をするのか伝わっていなかったためか、普通に帰ってしまう方も多くおられたとの報告がありました。2階を使用する9時半と11時半のミサでは階段下の聖堂入口付近が混雑するため他のミサより避難に少し時間がかかったようですが、それでも5分以内には避難を完了することができました。避難訓練はミサに来られる皆さんがどのように避難するか体感していただく目的もありますが、誘導する係の訓練でもありますので、今後も毎年行う避難訓練にご理解、ご協力をいただければ幸いです。

(文・防災委員会 委員長 小倉 謙
写真提供・ヨゼフ会)

侍者会より

侍者会として教会報へ寄稿することはコロナ流行前のように、随分久しぶりです。

久しぶりの寄稿を記念して、9月28日のお昼のミサで奉仕をしたメンバーで写真を撮ってもらいました。この日はグェップ神父さまも共同司式でいらしていたので、神父さま2人に侍者5人と年間主日では、かなり賑やかに奉仕することができました。藤沢教会の教会学校の方もいらっしやっており、また幼児洗礼もありと、教会共同体をはっきりと感じられた日だと思っています。



さて、「王であるキリストの主日」は山手教会では初聖体を行う主日とされていることをご存じのことかと思えます。侍者は小学生から大人まで幅広く奉仕していますが、この初聖体を終えているか、というのが侍者をする上では重要なポイントです。侍者奉仕をする場合、初聖体を終えていることが必要条件だからです。ぜひ、今年初聖体を終えたお子さま（親御さん）がいらっしやいましたら、侍者奉仕を考えてみていただけたらうれしいです。

侍者って緊張感がある、覚えることが多くて難しそう。そのような感情をお持ちの方もきっといらっしやるのではないのでしょうか。確かに、これらの感

情も一定あることは事実です。

それ以上に、イエス様の小さな弟子としてミサに参加したい、またミサをもっと近くで味わいたい、その気持ちがある方は、ぜひ侍者会の門をたたいてみてください。

(文・侍者会 リーダー 藤本哉夢)

撮影・編集部 土方芳人)

外国籍サンデースクールの子どもたちとの合同イベント開催

7月27日(日)、教会学校とサンデースクールの「合同サマースクール2025」を開催しました。

テーマを「『聖年』～神さまのめぐみ・希望をもってあゆもう～」とし、子どもたちはサンデースクールから5人、教会学校から22人、サンデーの先生方、教会学校のリーダー、それぞれの保護者、合計47人が集まりました。

11時半のミサに参加した後、鈴木真神父様から、聖年のテーマが「希望の巡礼者」であるということ、「希望というのは、神さまがいつも私たちが愛してくださっているから、どこへ巡礼に行っても神さまの愛を感じられ、出会いと大きな恵みを与えられますよ」と教えていただきました。

その後、教会ホールに移動して昼食。サンデースクールの子どもたちは日本語での会話が可能なため、すぐに仲良くなり、楽しい食事となりました。さらに互いの交流を深めるため「ジェスチャーゲーム」を行い、「ルーチェとその仲間たち」のイラストを使い、記念のうちわを作りました。

それぞれ出来上がったものを見せ合い、そのうちわを使った「風船運びゲーム」では、全員で輪になって遊び、歓声が途切れませんでした。

最後は、「希望の巡礼者」を日本語と英語、それぞれの言葉で一緒に歌いました。英語の歌詞の意味は分からないけれど、その歌声がとても清らかで、聖霊の働きに包まれたような一体感に心が震える思いでした。普段は接する機会のないサンデースクールと教会学校ですが、やはり同じ山手教会共同体としてつながっているということ、強く感じら

れた一日になりました。



風船運びゲーム



外国籍の大人も子どもも笑顔でひとつになりました

(教会学校 リーダー 古山 久美子)

横浜教区神奈川第3地区 共同宣教司牧委員会の報告

2025年10月12日(日)午後3時から、磯子教会で2025年度第4回横浜教区神奈川第3地区共同宣教司牧委員会が開催されました。

まず3部門の報告が行われ、「信仰を伝える力を育てる部門」からは、前回報告があった山手教会へ巡礼する企画の日時や内容について話し合われたとの報告がありました。「祈る力を育てる部門」からは、メンバーの病気などで予定していた集まりがなかったことと、各小教区の4番目の共同祈願についての情報交換を行う予定との報告がありました。「神の愛を証しする力を育てる部門」からは、9月27～28日に軽井沢で行われた教区懇談会の報告がありました。ラウダート・シ(環境問題など)がテーマで、ラウダート・シ部門担当司教である新潟教区の成井司教様の講話があったとの報告がありました。

青少年デスクからは第3地区の夏企画を8月23

～24日に行い、各教会の小学校6年生から高校3年生までの14人が参加したとの報告がありました。外国にルーツを持つ子どもたちも多く、国際的で賑やかな2日間だったとのことでした。教会学校リーダー会からは特に報告事項はありませんでした。

次に教区委員会関係の報告ですが、まずENCOMから10月25日に松本でフィリピンフェスタが行われること。ステラマリスからは、横浜雙葉学園の生徒9人が10月8日の訪船活動に参加したこと。典礼委員会からは、9月8～10日に全国典礼担当者会議が行われ、参加された教区典礼委員長の田丸神父様から報告があったこと。一粒会からは、10月13日に箱根の函嶺白百合学園で一粒会大会が行われること。信仰司牧評議会からは、証し部門から教区懇談会の補足説明があった。青少年委員会からは、8月11～14日にカリタス小学校で高校生大会が行われ、参加者が8人だったこと。9月5～6日に学連が小田原教会で10人ほど集まったこと、10月18～19日に函嶺白百合学園で行われる青年の集いの参加者が35人ほどになることが報告されました。

次回は2026年1月18日(日)午後3時から二俣川教会で開催されます。

(教会委員会 委員長 小倉 謙)

2025年10月度教会委員会議事要約

日時：2025年10月5日(日)午後1時～2時20分
場所：司祭・信徒館1階「松・竹」
議事内容(議事進行：小倉委員長)

1 主な審議確認検討事案 ※順不同

(1) 主日ミサの献金箱について

- 現在、主日ミサの際には献金箱を4つ並べており、置き場所が限られていることから、あの大きさのものを4つ並べて置いてあることで新たな意向の献金に対応できない。

【決定事項】

- ・1つの箱に複数の入れ口と中に仕切りのある献金箱を検討する。
- (2) 千葉大学の研究室からの調査依頼について
 - 千葉大学大学院創成工学先行建築コースの研究室から、聖堂の撮影・実測・アンケート調査の

申し込みが届いた。

- 依頼者の希望として、10月半ばに調査の可否について返事をいただきたいとのこと。
- 巡礼と重ならないように調整する。

【決定事項】

- ・承認する。

(3) クリスマスキャロル開催について

- 12月7日（日）午後4時よりクリスマスキャロルを行う予定である。
- 今年はラジュ師にお祈りなどをお願いをしたい。

【決定事項】

- ・承認する。

(4) 大掃除の日程について

- 今年は巡礼者来訪予定との絡みがあるので早めに大掃除の日程を決めたい。

【決定事項】

- ・施設管理委員会で調整する。

(5) 降誕祭準備について

- 馬小屋設置からの今年のクリスマスの予定を典礼委員会で議論した。
- 馬小屋の設置は、11月23日（日）「王であるキリスト」、解体は2026年1月4日（日）「主の公現」の祭日とした。
- 降誕祭ミサは、昨年までと同じ要領とし、会場は横浜雙葉学園の講堂とする。

2 今後の活動、報告事項

【教会学校の洗礼・初聖体、パーティーについて】

- 11月23日（日）11時30分ミサで、教会学校の洗礼・初聖体を、午後から教会ホールでパーティーを行う。
- 個包装の軽食とお菓子、切り分けられたケーキを用意する。

【追悼ミサ及び納骨について】

- 追悼ミサを11月1日（土）10時から行う。
- 同日午後1時から合葬墓への納骨を行う。

【七五三の祝福について】

- 今年の七五三の祝福は11月16日（日）とする。

【ロザリオ会より】

- ロザリオ会主催のミサは11月7日（金）、ヨセフ・トラン・ヴァン・グエップ師司式予定。
- 12月は5日（金）の予定。

【横浜みこころ幼稚園より】

- 10月26日（日）に幼稚園、ロザリオ会、ボーイ

スカウト、ガールスカウト主催のバザーを開催する。

- 教会の関係者は、セキュリティのためシールを貼って参加していただく。
- ゲームはゲーム券を購入していただく形式。
- 食べ物は、パンプキンスープとドーナツ、シューマイなどを提供予定。

【典礼委員会より】

- 主日ミサの案内係として、新たに奉仕して下さる方を募集したい。月1回でも良いのでご協力いただきたい。

【ICCより】

- 10月4日（土）・5日（日）のミサで避難訓練を行なった。

【福祉委員会より】

- 今後のミニバザーの商品などに、教会のアピールのためのシールを作成して貼ることとした。他の場面でも活用できるかと考えられるので参考にしていただければと考えている。

【キリスト像のパンフレットについて】

- 山下町の横浜天主堂跡のキリスト像についてのパンフレットを地域文化財記念碑保存会の依頼で作成した。

【教会学校より】

- 教会学校では「仲良くなろう」という企画を行っている。6年生が他学年のために企画運営を行うものだが、10月5日（日）に外国籍のサンデースクールと合同で開催し、大変盛り上がった。

【聖堂のエアコンについて】

- 聖堂のエアコンについて検討を継続。
- 現状では、部材の調達などの関係でエアコンの更改については、早くとも2026年の秋ごろになる見込みである。

3 主任司祭から

- 助任司祭として赴任されたヨセフ・トラン・ヴァン・グエップ師は、来月から教会委員会にも出席する。
- 12月28日（日）11時半より聖年閉幕司教ミサが行われる。

4 次回教会委員会

2025年11月2日（日）午後1時～3時終了予定。

（総務担当 斎藤 悠美子）

2025年11月・12月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

	主 日	聖 歌			聖歌隊	時 間	奉 仕 者				備考
		答唱詩編	アレルヤ唱	ミサ曲			オルガン	先 唱	聖書朗読		
11月16日	年間第33主日	典149 ③④	典274 年間33C	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	太 田	工藤(元)	飯塚(秀)	志村(光)	
						7:30	渡 邊	末 澤	池田(恵)	萩原(恵)	
						11:30	中 川	小 山	高橋(佳)	佐伯(奈)	
23日	王であるキリスト	典173 ①②③	典266 王である キリスト	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	忠 海	宮	工藤(元)	島田(節)	
						7:30	手 束	亀 井	古谷(浩)	藤本(茂)	
						11:30	太 田	子どもとともにささげるミサ			
30日	待降節第1主日	典173 ①②⑤	典255 第1主日	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	手 塚	柳 川	工藤(元)	櫻井(智)	
						7:30	小 嶋	時 久	梅田(啓)	稲葉(千)	
						11:30	米 沢	村田(義)	小松(美)	萩原(恵)	
12月7日	待降節第2主日	典136 ①②④	典255 第2主日	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	太 田	竹之内	新井田	阿部(眞)	
						7:30	手 束	石 賀	鈴木(幸)	鈴木(由)	
						11:30	手 塚	山本(紀)	清水(美)	雨宮(み)	
14日	待降節第3主日	典19 ①③④	典255 第3主日	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	村 松	齋藤(悠)	小佐井	福田(直)	
						7:30	中 川	二 宮	東海林(珠)	時 久	
						11:30	太 田	子どもとともにささげるミサ			
21日	待降節第4主日	典158 ②③④	典257 第4主日A	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	太 田	工藤(元)	飯塚(秀)	志村(光)	
						7:30	渡 邊	末 澤	選定中	萩原(恵)	
						11:30	佐 藤	小 山	中川(由)	佐伯(奈)	
24日	主の降誕(夜半)	典148 ①④⑤	典258 主の降誕 (夜半)	ミサ曲A 典605~9	*	pm8:00	佐 藤	選定中	選定中	選定中	雙葉学園 講堂
25日	主の降誕(日中)	典149 ①②③	典258 主の降誕 (日中)	天使ミサ カ503	*	11:30	米 沢	選定中	選定中	選定中	
28日	聖家族 (通常聖年閉幕式)	典103 ①②	典258 聖家族	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	忠 海	宮	工藤(元)	島田(節)	
						7:30	小 嶋	亀 井	古谷(浩)	藤本(茂)	
						11:30	米 沢	小 倉	石田(明)	中野(説)	

編 集 後 記

進化する山下公園のムクドリ。ムクドリは全長24cm、スズメとハトの中間ぐらいの大きさで、街中でよく見かけます。2014年5月19日に山下公園の海で海洋生物を捕らえているムクドリを目撃しましたが、この鳥がさらに進化している姿に遭遇しました。公園の岸壁に立ち、引き潮で浅くなった海を眺めていると、下から目の前の岸壁を伝ってムクドリが現れたのです。驚いて観察すると、引き潮で岸壁の最下部に出現した幅30cm位の棚を基盤にして、高さ10m程度の岸壁を端から順番に羽ばたきながら上下に移動し、岸壁の石の間に隠れている小さなカニ・エビ・フナ虫・ゴカイなどの海洋生物を探して捕食していたのです。ムクドリが海洋生物を捕食している現場を見るのは2回目ですが、前回は引き潮で現れた棚の上を歩きながら捕食していました。しかし、今回は岸壁全体を狩りの場としていたのです。さらに、前回は1羽でしたが今回は2羽でした。今後、海辺で生活しているムクドリは海鳥のように進化していくのでしょうか。(土方芳人)

☆表紙のカット(山手教会)は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。